

# H30学力向上アクションプラン(玖珠町)

## 目標及び指標

- 【目標】
- 児童生徒の基礎基本の更なる徹底
  - 「新大分スタンダード」に基づく授業改善の徹底(教科指導力の向上)

達成指標	取組指標
○全国学力・学習状況調査・大分県学力定着調査において、全ての教科で県平均をこえた学校数 小学校(6/7) 中学校(4/6)	○全教員が単元プランに基づく「付けたい力」を明確にして「めあて・課題・まとめ・振り返り」を位置づけた授業を実施する。(学期ごとのアンケートで100%) ○学力向上支援教員公開授業を全教員が1回以上参観し、公開授業で参考になったことを自校で環流をする。(同じ実践をした教員数→10人)
○町確認テストにおいて、目標値を超えた学校数 小学校(6/7) 中学校(5/6)	○学力向上支援教員の中学校への他校訪問での授業観察による助言・支援(各支援教員6回) ○中学校区での小中連携会議を実施する(年間3回) ※学力向上に向けたテーマを設定し、互見授業や相互参加授業を実施する。 ○補充学習の計画書作成及び報告書提出(100%)
○中学校合同教科部会の実施(6回)	○中学校の教科ごとに部会(10部会)を組織して、評価問題作成、指導方法・教育課程の協議を実施する。

## 行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
  - 授業における付けたい力を明確にし、授業の「ねらい」と評価規準を連動させる。
  - つけたい力(具体的な評価規準)と連動した「めあて・課題・まとめ・振り返り」の設定について、教務主任・研究主任を中心とした校内研究で共通理解をして実践する。
  - 「新大分スタンダード」に基づく授業観察シート等を活用した管理職の授業観察及び教職員の互見授業を実施する。
  - 学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員による「新大分スタンダード」を踏まえた公開授業を実施する。
  - 校内研究への指導主事の派遣(各校3回以上)→この中で「新大分スタンダード」の徹底
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
  - 1 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
    - 「授業改善の5点セット」を活用し、校内研究による授業改善を充実させる。
    - 教科別等の研修会を実施し、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業を充実させる。
    - 学力向上支援教員の他校訪問による授業観察と授業観察後の助言・支援
    - 校内研究への指導主事の派遣(各校3回以上)→この中で「新大分スタンダード」の徹底
    - 習熟度別指導教員による「新大分スタンダード」を踏まえた公開授業の実施
  - 2 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
    - 中学校校長会において、近隣の学校との合同教科部会の開催計画を策定
    - 新中学校開校に向けた「教育活動部会」の教科別部会において、指導案や評価問題等の作成を行う。
    - 「町内共有フォルダ」による指導案や資料の交流
  - 3 「生徒と共に創る授業」の推進
    - 生徒による授業評価を実施し、それを授業改善に反映する。町内の好事例を校長会及び教務主任会で紹介し、各学校の授業評価に役立てる。
- ③新学習指導要領の実施に関して
  - ※小学校外国語への対応(必須)
    - 中学校英語教諭の兼務による授業
    - ALTの配置
    - 小学校外国語担当者会を開催し、研修と情報交換の実施
    - 玖珠郡教育研究協議会での小中外国語部会の合同研修会
  - ※学校の教育目標の明確化と、総合的な学習の時間との関連等について
    - 年度当初の校長会・教頭会において、周知徹底を行う。
  - ※地域とともにある学校づくり(コミュニティー・スクール)について
    - 平成30年度のコミュニティー・スクール対象校:小学校→5校、中学校→4校
    - 新中学校(平成31年4月開校)での、コミュニティー・スクールのあり方を新中学校に係る取組をする部会の一つである「コミュニティー・スクール部会」で協議をする。
  - ※町独自の取組
    - 特別支援教育支援員の配置(22名)
    - 専科教員の配置(5名)
    - 町学力調査(12月中旬、学年:小学1年~中学2年)
    - 町算数・数学確認テスト(年間4回)、町英語確認テスト(年間5回)
    - 問題データベース(算数、英語)